

時代の変化によって作風は変わるのか

国語班：上間沙耶 小田瑞貴
後藤真綾 山本茜音

1. はじめに

私たちはピカソが大きな出来事によって作風が変化したことを受けて、文学においても同じことがいえるのではないかと考えた。

そこで多くの人に影響を与えたと思われる戦争に焦点を当てて研究しようと考えた。

2. 調査対象

今回は第一次世界大戦と第二次世界大戦を題材とした戦争詩に焦点をあてる。

3. 調査方法

①調査対象である詩人の戦争詩（戦中のもの）を読み、後述のカテゴリー分け（A）を行う。

②調査対象である詩人の戦争史（戦後のもの）を読み、後述のカテゴリー分け（B）を行う。

③（A） / （B）の結果から作風の変化を読み取る。

※ここでいう「作風」とは作品のテーマ性・思想のことを指す。

《作者の選定条件》

戦中・戦後共に作品を書いている者。

《カテゴリー分け》 ※戦中の作品はA、戦後の作品はBのカテゴリー分けを用いる。

	カテゴリー A	カテゴリー B
①	反戦詩の制作	反戦詩の制作
②	戦争賛美詩の制作	戦争賛美詩の制作
③	創作活動の中止 または戦争と関係のない作品の制作	創作活動の中止 または戦争と関係のない作品の制作
④	政府の統制等によって 戦争賛美詩を製作	

4. 結果

今回調べた 11 人は全て、カテゴリーAとカテゴリーBで結果が違った。

つまり、戦中と戦後では全員作風が変わった。

その中でも反戦詩の制作から反戦詩や戦争と関係ない作品の制作へと変わっている人が多く見られた。戦争という大きな出来事は作風に大きな影響を与えた。

《カテゴリー分け：結果》

	カテゴリーA	カテゴリーB
①	与謝野晶子 吉野弘	与謝野晶子 吉野弘 草野心平 村野四郎 志賀直哉 徳田秋風 ジークフリード・サスーン まど・みちお 粟原貞子 谷崎純一郎
②	高村光太郎 草野心平 村野四郎	
③	志賀直哉 徳田秋風 ジークフリード・サスーン	高村光太郎
④	まど・みちお 粟原貞子 谷崎潤一郎	

5. 考察

カテゴリー①に変化が偏った原因として、戦争に対しての反感を人々が持つようになったこと、その風潮の中で戦争を賛美する詩人が作品を発表しづらくなったことが挙げられる。これらのことから、作風は社会と深く関わり合っていることがわかる。

今回調べた11人には作風の変化が見られたために、同時代のほかの詩人に対してもまた戦争という大きな出来事は影響を及ぼした可能性があると考えられる。

今後は対象とする詩人のサンプルを増やしてもっと幅広く正確なデータを取り、さらに作風と詩人の心情の関係を調べていきたい。

6. 参考文献

『戦争と文学 ——文学的抵抗の問題を中心として——』

<https://home.hiroshima-u.ac.jp/bngkkn/hlm-society/Teikou.html>

『東京医科歯科大学教養部研究紀要 第四十六号抜刷二千十六年三月 「智恵子抄」から「記録」へ』

『一戦時下における高村光太郎一』 土佐 朋子

https://ci.nii.ac.jp/els/contentscinii_110010027648.pdf?id=ART0010591847

『村野四郎の抒情詩について | 週刊からくり大江戸瓦版』

<https://ameblo.jp/dommbecket/entry-12373085565.html>

草野心平『草野心平詩集』1991/11/18（岩波文庫）